



精神科医からみたパワーハラスメント ～被害者と加害者にならないために～

上村 秀樹(ウエムラ ヒデキ)
奈良県総合医療センター 精神科

私自身は、ハラスメントについての専門家ではありませんが、産業医として30年以上、色々な職場に関わっており、この15年弱は勤務している病院のメンタルヘルス担当の産業医として、また8年弱は奈良県労働局の地方労災医員として労災認定の業務に携わって来ているという背景があり、ハラスメント事例に対して精神科医師として、多少なりとも関わってきたことから、本講演を依頼されたのだと思います。

専門家ではありませんので、ハラスメントについて改めて勉強させていただいた上でお話をしたいと思います。

最初は、ハラスメントと呼ばれている事象の背景にある事柄について、個人的な見解ではありますが、お話したいと思います。それは、主に三点であり、①地域社会の崩壊、②価値観の単一化、そして、③グローバルイゼーションにまとめることができるかもしれません。その結果生じる、コミュニケーションの不調和が、ハラスメントという問題に大きく関わっているように思われます。

次いで、ハラスメントの定義と種類について、また、国(厚生労働省)が、取り組んでいる、現時点のハラスメント対策について、具体的な映像を交えて、お示しした後、以前、勤務していた病院で調査したハラスメントのアンケート結果について触れた上で、具体的に私自身が関わった、ハラスメント症例を(匿名性から改変を加え)提示し、ハラスメントによって生じる精神医学的問題について具体的にお伝えできればと考えます。

最後に、ハラスメントの加害者、及び被害者の特性を、精神科医の視点から捉えなおした上で、あらためて、コミュニケーションという視点から、ハラスメントについて考察し、個人および職場という次元で、ハラスメントを如何に予防してゆくか、多少なりとも提言できればと思っております。